

4

2023

三重病院

## ニュースレター

news letter vol.279



- 01 小児の摂食障害ってどんな病気?《第1弾》  
臨床研究部からのお便り[第48回]  
2022年度小児看護専門看護師認定審査に合格しました  
災害訓練を行いました  
2病棟に新しい仲間がきました～
- 02 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ  
5病棟の生活のひとコマ⑦  
通所支援事業のひとコマ  
やまばとギャラリー情報コーナー  
今月のみえツウちゃん
- 04 病院からのお便り／外来診察のご案内

# 小児の摂食障害ってどんな病気? 第1弾

皆さんは摂食障害と聞くとどのような病気を思い浮かべますか?

アメリカの精神医学会が定める摂食障害を示します。

DSM-5 アメリカ精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル

## 食行動障害および摂食障害群

異食症

反芻症／反芻性障害

回避・制限性食物摂取症／回避・無限性食物摂取障害

神経性やせ症／神経性無食欲症

神経性過食症／神経性大食症

過食性障害

他の特定される食行動障害または摂食障害

特定不能の食行動障害または摂食障害

これらのうち体重減少があり低栄養状態に陥り小児では成長にも影響が来ると指摘されている代表的な2疾患が回避・制限性食物摂取症と神経性やせ症(神経性無食欲症)です。神経性やせ症はいわゆる拒食症のことで、こちらの病名のほうが聞きなれているかもしれませんが、以前は拒食症と言えば高校生や大学生くらいの女性がかかる病気でしたが、近年は若年化(低年齢化)の影響で小学生や中学生で発症する子が増えてきています。また、COVID-19の影響で摂食障害患者の増加が世界各地で報告されており、日本でも、この三重県でもその状態が起こりました。

## 【神経性やせ症(Anorexia Nervosa略してAN)

今月はこの神経性やせ症について説明いたします。

この病気は、非常に痩せているにもかかわらず、「もっとやせたい。食べたら太る。」とってしまう病気です。摂取量を制限する『摂食制限型』とたくさん食べて嘔吐する『過食・排出型』があります。表向きは「やせたい」と思っているように見えますが、この病気の本当の原因は「さみしさ・不全感」で、無意識に存在する「心の中の大きな穴」が原因です。たまたま体重が減った時に「うれしい」と感じるとその穴が埋まっていくかのような錯覚に陥ってしまいます。「もっとやせたらもっと幸せになれるかも!」…。でも、決して穴は埋まりません。さらに、周囲の人は「やせて可愛くなった」「やせたの?いいな～」と本人に言います。低栄養状態ではストレス対応ホルモンが出るため、集中力が一時的に増し成績が上がる場合があります。ズボンのサイズダウンでや

せたことを実感します。もう良いことだらけ(?)です。しかし、どれだけやせても心の奥にある「さみしさ・不全感」は満たされることはありません。どんどん体重は減り、いつの間にか自分の力では回復できなくなってしまうのです。低栄養に陥った病気の脳は「食べたら太るよ。かわいい洋服も着れなくなるよ」と脅してきます。少しでも食べると病気の脳がささやきます「食べたの?太ったよ。ほら足太くなったんじゃない?」……。もう、自分では止められないですね。では、どうしたらよいのでしょうか。

「食べたらよくなるのに、なんで食べないの?」とは決して言わないでください。それは本人がもうとっくに知っています。肺炎で熱や咳が出て苦しんでいる子に「私の前で咳をしないで」とは言いませんよね。背中さすりながら「苦しいよね。つらいよね。早く治るといいね」と声をかけると思いますが、摂食障害という病気にかかっているだけなのです。この疾患の治療の過程は長く、とても苦しいものです。苦しい中、家族、周囲(友達、学校の先生、地域社会)の支えが非常に重要な病気です。やせたかったかもしれないけど、病気になりたかったわけではありません。決して本人は悪くないのです。治りたい、頑張りたい、また「おいしい」と思っでご飯を食べられるようになりたい。そう思っている子の気持ちに寄り添うことがとても重要です。

この病気になって困っている体の症状はたくさんあると思います。便秘、肌の乾燥、よく聞かれるのは「とても寒がりになった」等です。不眠やふらつき、ひどく浮腫くともあります。それらの低栄養状態が長期にわたり持続すると低身長、骨粗鬆症、不妊など将来にまで影響を来します。できるだけ早期の栄養状態の回復が必要な病気ですが、一度低栄養に陥った脳を元に戻すことは非常に困難なことです。ご本人もご家族にとっても苦しい病気もあり周囲の方の協力がが必要です。三重病院でもそのお手伝いができればと思っています。受診までは…と思われる方、学校の先生や養護教諭の先生に相談されることもお勧めします。近くの小児科クリニックの先生にも相談してみてください。必要であれば三重病院の受診を勧めてくれますよ。

次回は回避・制限性食物摂取症について説明いたします。(小児科 鈴木 由紀)